

光円寺報

2011年 11月

〒679-2323 兵庫県神崎郡

市川町甘地384

後藤明照・由美子 (惟蓮)

Tel & fax 0790-26-0162

mail: [Kouenji_dayo@nifty](mailto:Kouenji_dayo@nifty.com)

.com

<http://Kouenji-hou.com/>

通信費年間 1000円

慈悲に聖道

浄土の

かわりめあり

歎異抄



仏教徒宣言 (その九十四)

立冬も過ぎ、今日、十一日は朝から冷たい雨が降っています。境内の銀杏の木も実が黄色に色付き、毎日ポトポトと落ち、残り少なくなるとともに葉が色付き始め秋が深まっています。そんな中、あれから八ヶ月。冬の訪れの早い東北の、岩手・宮城・福島の前被災地では、地震・津波・放射能汚染によつて、仮設に住まなくてはならない人、避難生活を強いられている人たちにも、一雨ごとに寒さを増すこの時期、被災された人たちに無情(上)の冷たさを感じさせることと想像します。

寒さが忍び寄る中、夏の節電要請に続き、電力会社はこの冬の電力需要に合わせて節電の協力キャンペーンを始め、政府も節電の要請を電力会社に行っています。関西電力では、来年二月には稼働中の原発がすべて定期検査で停止します。そうになると、原発を稼働させないと電力の安定供給が出来なくなり、寒さを我慢し、昔の生活に逆戻りするようなことを聞きますが、根拠は示していません。一年で最も需要のある夏にも電力不足も起きませんでした。関電はこの冬の「電力不足？」に対して大飯3号機を再稼働すべき手続きの「ストレステスト」を実施し関係機関に報告済みだと、先日九日の新聞(毎日)に一ページを割いて載せていました。そんな電力会社の広告費は日本で、大手マスコミは電力会社に都合の悪いことは載せず、真実が伝えられないのです。

しかし、もうすでに死者を何人も出し、取り返しのつかない被害を数えきれない人々に負わせた東電の原発事故に対し、警察の捜査が行われないのはなぜでしょうか。業務上過失致死にはあたらないのでしょうか? ユツケの時にはすごい騒ぎでしたが、爆発し壊れ、手のつけられない燃料棒が炉心溶融してしまつた1・2・3号機からは、未だに自然界には存在しない人口の放射性物質が放出され続けています。

そして、その放射線の被害について専門家の意見が分かれ、翻弄させられる中、本当に今、何をしなければならないのか、誤魔化されているように思われてなりません。それは、事故当初の「放射能は100ミリシーベルトまでは、妊婦も含めて安全」とか「笑っていれば放射能は

逃げて行くから大丈夫」という国や県の公的機関による安全キャンペーンで、線量の高い所の人を含めて多くの人たちが、地元での生活を選んではしまったのだと、二本松の佐々木道範（大谷派僧侶）さんを訪ね、お話を聞いたと由美子さんが話していました。最も緊急的、且つ、必要性の高い「避難」という方法が、公的に速やかに行なわれなかったのです。だから、避難すべき地域の子どもや妊婦の人たちが避難しなかったり、したくても様々な理由で出来なくて、その地に残り生活をせざるを得なくなつた。これは本当に許されることではないと思います。

しかし、今となつては移住も避難も考えられず、できる限りヒバクを減らすための除染作業や食べ物物の放射能測定を自分たちでやって行くことに全力を挙げておられます。

仏教では、生活できない事・食べて行けなくなるのを畏れるのを「不活畏」と教えます。凡夫と言いつてられる私たちには、必ずこの畏れ・不安が付きまといつていくことです。この不安は、私にあつてあなたにはない。又、私にはなくてあなたにはある。というものではなく、「煩惱具足」の私たち人間には既に誰にでも具わつていくものなのです。だから、この不活畏は、原発を再稼働しようとする人にも、原発はもういらぬと言つていく私にも、生活不安は起こつてくるものです。

そして、生活が出来なくなるという理由で、経済・お金を優先させたり、武力を優先させてしまう、そんな流れが原発の再稼働であり、今、世を二分している「TPP」への参加、不参加の問題としても顕われているのではないのでしょうか。今、私たちはどこに起（た）とうとするのかの選択に迫られています。今日まで時を越え、処を越え、人を超えて伝わつてきている言葉があります。「人はパンのみで生きるにあらず」「朝に教えを聞かば、夕に死すとも可なり」「食べなくては死んでしまふが、食べても死ぬ」。これらの言葉は、ふと立ち止まることのできる言葉です。生きにくくなつた時に、私たちはどこに起つのか。何が正しくて何が間違つていのか容易には判断がつかない。しかしそれを知ろうとする努力はし続ける。天命に安んじて、人事を尽くす。

南無阿弥陀仏

釈明照

歎異抄第4章

慈悲に聖道 浄土のかわりめあり 聖道の慈

悲というはものをあわれみ かなしみはぐくむ

なり しかれども おもつがごとくたすけとぐる

こときわめてありがたし

浄土の慈悲というは念仏して いそぎ仏になり

て大慈大悲心をもつて おもつがごとく衆生を

利益するをいふべきなり 今生に いかにと

おし不便とおもつとも 存知のごとくたすけがた

ければ この慈悲始終なし

しかれば 念仏もつすのみぞ すえとおりたる大

慈悲心にてそうつべきと云々」

*聖道の慈悲が、浄土の慈悲に変わるんです。

変わり目があると言つていふのです。 長田浩昭